



村上建設のこだわり

村上建設のこだわりは木造であることをそこに住まう家族に包み隠さず、全身で感じていただくこと。そして長期に渡り快適で気持ちの良い空間で日々過ごしていただくことです。それは住まいそのものだけでなく周囲の環境に合わせたプランづくりから始まり、そこに使用される材料の選別にも気を配ります。そして何より自然と周りにそっと溶け込む落ち着いた感じのあるデザインも一つの個性であり、住まい手を表す顔だと思っています。

なかなか「ごも」もやるじゃないか！

村上建設は先代社長から引き継ぎ、創業50年を超えました。地元秦野以外でもお仕事を依頼されますが、お客様の90%以上は地元が圧倒的な数になります。それは単に村上建設が秦野の会社だからではありません。私自身が産まれ育った町であること、そして地元秦野を愛しているからに他なりません。完成した後も長く楽しく安心してお付き合いを続けることが出来ることも地元ならではの良さではないでしょうか。

株式会社村上建設
代表取締役 村上 敬



※写真は、村上建設が施工しました別物件で、見学会開催建物と異なるイメージ写真です。

全
完
予
約
制

高台に建つ黒い焼杉の壁と煙突のある家

ここ近年見直されつつある平屋の住まい。「土地に余裕さえあれば平屋にしたいよね」という意見を良く耳にします。ただ現実的には土地から求める方にとっては、広い土地はかなりハードルが高いのが事実。今回は敷地の傾斜部分を除いても十分にご希望のプランが可能だったため、思い切って平屋をご提案させて頂きました。将来的に使用頻度が極端に下がる2階部分が無いということは、横移動のみで生活動線が成り立つため非常に理想的でもありません。逆の面から平屋を考察すると弱点もあります。まずは同じ坪数の平屋と2階建て（総2階）を比較した場合、一目瞭然。平屋の方が基礎も屋根も単純に倍の面積になってしまふ為、この事によるコストアップは避けられませんし、間取りが横に長くなりやすいなど幾つか挙げられるでしょう。

しかしそれらを差し引いても、同じだけの重量物である2階部分が上階に載っていないというだけでも1階の基礎や柱などの構造に与える影響は耐震性一つとっても想像以上の負担軽減だと言えるでしょう。その他上下階の音の問題も解決できる点も大きなストレス回避ではないでしょうか。是非この機会に平屋とはどんな住まいなのかを考えてみてはいかがでしょうか。



焼杉とは？

高い意匠性／外壁材としての焼杉がもつメリットには、なんと言ってもその見た目、高い意匠性にあります。黒くシックな色味、炭独特の光沢や陰影、天然の木材がもつ風合いやあたたかみは、なかなか工業系の製品には生み出せません。古くから日本の家屋に用いられてきたこともあり、日本の街並みにも自然となじみ、長く飽きが来ないたたずまいを演出します。



耐火性／二つ目は、焼杉がもつ耐火性です。「炭」という燃えやすいイメージがありますが、この真っ黒の部分は元素としての炭なのでそれ以上燃える余地がありません。そのため、万が一の火災でも火が燃え広がりにくいという特徴があります。

コストパフォーマンス／10年に一回程度メンテナンスが必要なサイディングに比べ、焼杉の場合は素材そのものはほとんど痛まないためメンテナンス費用が抑えられるのと、仮に痛んでしまってもその部分の部材だけ交換すればよいので、長い目を見たときのコストパフォーマンスは安くなるというメリットがあります。

環境負荷／素材の環境負荷が低い林業の活性化に貢献できる焼杉は自然素材であるので、外壁材としての製品になる過程での環境負荷は、ほかのサイディングに比べて低くなります。住まいは長く、次世代にも残していけるものなので、住まいづくりにおいて環境負荷が低い素材を選ぶことは大切なことです。また、日本は国土の約7割が森林に覆われた森林国です。日本の木を使うことで林業の活性化に貢献でき、地域の産業を守ることもつながります。これは他の外壁素材にはない大きなメリットといえます。

薪ストーブが見直されてきています！

- 価格が不安定な化石燃料に頼らない生活
- 間伐材の利用により、森林再生に貢献
- カーボンニュートラルにより、二酸化炭素を増やさない ※1
- 電気不要、煙突のドラフト(上昇気流)のみで燃やす
- 万一の時のライフラインとしても利用できる ※2

※1 カーボンニュートラルとは？

薪ストーブの煙から排出されるCO2は、植樹された森林や植物が光合成の過程で吸収します。それにより地球上のCO2が増えない、土0であるという考え方を「カーボンニュートラル」といいます。地球温暖化が叫ばれている昨今、エコやグリーンな活動の一環として、薪ストーブが地球に優しいと注目されています。

※2 ライフラインとしての薪ストーブ

2011年東日本大震災の際、被災地では電気・ガス・水道のライフラインが全て寸断されました。その際に、薪ストーブを入れていたご住宅に近隣の方が集まり、暖をとり、薪ストーブの灯りを頼りに料理を作り、互いに支え合い励まし合ったという話があります。煙突のドラフトのみで燃やすことのできる薪ストーブは、燃料の木材さえあればいつでも使用することができるのです。

